



## 人を力づける技術

尾家 祐二<sup>1</sup>

私達は、日々の暮らしにおいて、視覚、聴覚を含めた五感によって、多くの情報を得ています。そして、それらを基に、何らかの処理を行い、行動しています。したがって、情報の獲得、保存、検索、処理(加工も)、伝達は、私達の社会活動そのものです。情報科学は、まさにそれら様々な事柄に関する原理を探求する学問であり、それを実現する技術がいわゆる IT(情報技術)であるということができます。

そういう意味で、IT は単なる一時的な流行ではなく、私達の活動を支援することが可能な技術であり、社会活動を支える、すなわち社会基盤(社会インフラ)を形成する技術となりうるものであり、持続的にその発展と普及が進められると思われまます。

これまで、IT は目覚しく発展しており、その急成長ぶりを示す例として、電話とインターネットの普及に関する比較を挙げることができます。日本で、電話が利用されるようになってから、10%の世帯普及率に達するまでには 76 年の歳月を要したのに対し、インターネットはわずか 5 年間で同様に普及しています。

電話そのものも変化し、家庭にある(固定)電話が、代表的な電話であったが、約 6000 万の加入をピークに年々減少し、ここ数年、携帯電話の加入者数が固定電話の加入者数を上回っています。携帯電話の普及は大変急激でした。そして、その普及は、一家に一台から一人に一台という、ただ数(量)の上だけの話ではなく、私達の生活の質にも影響をもたらしていると思います。それは、通信のパーソナル化の浸透によるものです。場所を選ばず、各人が互いに直接通信できることが可能になっています。

IT 技術はさらに進展し、私達の社会生活を支える社会基盤の技術から私達を取り巻く環境そのものに浸透する技術になりつつあります。実際、様々な情報がデジタル化され、情報に対する様々な操作が可能になり、ネットワークを通じた情報の伝達、共有も容易になってきます。そして、いわゆるコンピュータではない、家電、カメラ、各種センサー、ロボット等私達を取り巻く様々な機器がネットワークに接続され始めています。このようにして、IT 技術は私達の環境そのものに浸透してきています。

おりしも、内閣の IT 戦略本部から「e-Japan 戦略 II(案)」が示され、戦略思想として、「『元気・安心・感動・便利』社会を目指して」が掲げられています。IT 技術に関し、基盤技術の研究開発から、その効用を示す応用への研究開発にも強く関心が寄せられています。

さて、このような中で、技術を学び、今後の新たな技術の研究開発を担う学生諸君が認識していただきたいことがあります。それは、これらの技術は人によって用いられるべきものであり、人が技術に使われないようにしなければならないことです。そして、急激な IT の発展と普及に対応することは容易ではなく、私達利用者が飲み込まれないようにするためには、それなりの思慮が必要です。

<sup>1</sup>情報科学センター, oie@cse.kyutech.ac.jp

例えば，利用者の立場で，新たな技術を上手に付き合っていくことを考えて見ましょう．ネットワークは大変便利で，それによって遠くの人と容易に情報や気持ちを伝えることができます．そして，情報や空間を共有することもできます．今後ネットワークを介した人との交流がさらに多くなると思われますが，ネットワーク上で起きていることは，多くの場合実空間と密接に，あるときは，まさに実空間そのものであるにも拘らず，そのことを認識していないためのセキュリティや迷惑行為などトラブルが発生しています．仕組みの理解と実生活と遊離しない思慮が必要になります．

次には，技術者の視点に目を向けてみましょう．このとき，私は「『ありがとう』と言われる製品を創りたい」とお話になったある企業の技術者の方を思い出します．大変明快であり，これが出発点であり，これが目的であると思います．是非，そのような気持ちで，技術を学んでください．

情報科学センターでは，情報基礎科目の教育のためのコンピュータシステムおよびキャンパスの基盤となるネットワーク関連施設の整備および運用を行っています．これらの施設が，情報科学，情報技術の教育研究に用いられ，人を力づける技術の創出に少しでも貢献できれば大変光栄であり，そう願っています．